

日刊 動労千葉

84. 2. 23

No. 1571

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二七二〇七

この不屈・正義の力が世の中を変える

3・25三里塚現地集会は、一カ月後にせまりました。84年動労千葉団結旗開きにおいて、中野委員長がかかげた「3・25五割動員」が貫徹できるかどうかは、動労千葉の今後の飛躍と展望がかかった闘いであることを、一人ひとりの組合員が自覚し、猛然と決起しようではありませんか。

80年代をかけた 国鉄・三里塚をめぐる攻防

世界危機―日帝危機が深刻化する中で、中曽根は体制の延命をかけて戦争へむけた大反動攻撃をかけてきています。とりわけ、国鉄と三里塚に対して激しい攻撃にでてくることは不可避であります。

国鉄労働運動破壊攻撃である臨調―行革は、まだ完結したわけではなく、動乗勤改悪をはじめ、二〇万人台体制の実現にむけ、さらに攻撃が激化してくることは明らかであり、三里塚空港二期強硬論者・細田の運輸大臣登用、水野建設大臣、山村農水大臣の異例の人事に二期着工にむけた中曽根の決意が示されています。

まさに、三里塚二期、国鉄をめぐる攻防は、暗黒と政治反動、戦争への道を許すのか、それとも二期着工を阻止して戦争への道をうちくださき、80年代階級闘争の展開を切り開くことができるのかをかけた歴史的決戦として切迫しているのです。

三里塚闘争に今日の階級闘争が問われる核心がある

戦後史を総決算する、支配階級の側からの「革命」ともいべき大反動攻撃のまえに、労働運動指導部は何ひとつ闘いを組織しえずに屈服し、動労「本部」革マルにいたっては、国鉄当局に身を売り、フトコロに飛びこむことで生きのびようとしています。一方、三里塚では敵の攻撃と対決できず、他に展望をみつけようとする「一坪運動」なる脱落派を生みだしています。

三里塚闘争は、十八年間にわたって基本原則を貫き、日帝の軍事大国化・改憲攻撃と真向から対決して勝利的に闘いぬいてきました。今日の階級闘争総体に問われている核心こそ、ここにあるのです。

81・3闘争の教訓を全国鉄労働者のなかにもちこもう

戦争につながる道に労働者をひきずりこむ攻撃

の中で、労働運動の危機を突破する道はどこにあるのでしょうか。

それは、動労千葉の81・3ジェット闘争を教訓化し、労働運動！国鉄労働運動の中にもちこみ、今こそ労働組合が政治闘争を本気で闘うことが求められているのです。それなしに労働者のささやかな生活と権利も守ることはできません。

三里塚二期着工の切迫は、3・25集会で一つの大きなヤマ場を迎えており、三里塚闘争を自分達の闘いとして全力で取り組んでいく労働者の集団を、どれだけ国鉄労働者の中につくりだせるかどうかにかん動乗勤をはじめ、次々とおそいかかる攻撃に反撃できる階級的力が生みだせるかどうかの一切がかかっているのです。

動労千葉が3・25に五割動員を実現し、国鉄労働者一千名の決起をかちとることができるならば、国鉄労働運動は激しい流動過程に突入することは明らかです。

今こそ、動労千葉の大胆な登場が求められています。

三里塚闘争に勝利し、日本労働運動の大転換をかちとろうではありませんか。

そのためにも3・25三里塚へ根こそぎの五割動員を実現しよう。

年度末手当で申分

一九八三年度年度末手当の支払いに関し、動労千葉は、二月二二日「申第七号」をもって以下の申し入れを行いました。

- 一、職員および準職員については、支払い日現在の基準内賃金の一カ月分を支払うこと。
- 二、支払いは、現在、減給、停職、休職中の者については、減額されない額により支払うこと。
- 三、臨時雇用員については、支払い日現在の賃金の二五日分を支払うこと。
- 四、上記支払い日は、一九八四年三月十五日とすること。